

# ブルーベリーの新病害、菌核病の発生

編集係注：この発表は2007年8月に世界の学会で初めて発表されました

千葉県農業総合研究センター病害虫防除課 梅本 清作



2002年5月に、千葉県木更津市富来田地区のブルーベリーに、遠くから見ると枝が枯死してしまったのかと思われ、近づいて見ると果穂はもとより葉や新梢なども褐変腐敗している症状を見つけた。この症状は菌核病で、本病発生の報告は、日本初であり、世界でも初の可能性が高い。



写真1 被害株の全景

## 症状

葉や新梢全体が腐敗・枯死して茶褐色を呈する(写真1)。また、新梢は先端部から枯れ込むこともある(写真2)。また、湿り気が加わると、枯死部には白色の菌糸が見える(写真3)。



写真2 新梢の被害



写真3 枯死部に白い菌糸

## 菌核病とは

本病は多くの野菜類などの病気としてよく知られ、菌糸が固まりとなったネズミの糞のような形をした菌核を形成する。主に春、菌核から子のう盤と呼ばれるキノコ様の繁殖器官



写真4 キノコ様の繁殖器官

を形成し(写真4)、そこに形成された多数の子のう胞子(写真5)が飛散して、伝染する。



写真5 子のう胞子

## 菌核病と他の類似の病気

ブルーベリーでは、菌核病によく似たマミーベリー病が知られている。

## 宿主範囲

菌核病の宿主範囲はとても広く、大げさに言えばほとんどの植物に病気を起こす。

## 発病の品種間差異

これまでの観察では、ハイブッシュブルーベリーとラビットアイブルーベリーに同程度の発生を確認している。

## 防除

発病部を切除し、それを集めて焼くか土中深く埋めるようにする。なお、本病に適用のある殺菌剤は今のところ無い。